



倒壊した牛舎で横たわる乳牛 (2024年1月11日、珠洲市唐笠町で撮影)

連載 第3回

能登半島地震

村山嘉昭

発災から1週間後、地震で牛舎が倒壊した酪農家がいることを知った。畜産農家の被災状況は地元新聞社などがごく一部を報じていたものの、主要なマスコミでは扱われていなかった。

倒壊した牛舎は震度7を記録した珠洲市の震源地近くであり、牧場につながる唯一の道は斜面が崩壊し、孤立状態にあった。牧場主は1月5日に自衛隊のヘリコプターで救助され、珠洲市から離れた場所で避難中だったため、別の酪農家と徒歩で現地へ向かった。牛舎は屋根だけを残して潰れており、衰弱して横たわる牛や、梁や柱に挟まった状態で死んでいる牛の姿もあった。まだ半数ほどが生きていたが、どうすることもできない。余震が頻発する中、牧場主ひとりて牛を救出できる状況でなかったことは容易に想像できた。

私は親しい記者らに相談し、大手の放送局と全国紙に情報提供した。全国規模で報じられることで事態が良い方へ動くことを期待したが、時期尚早との判断で記事化は見送られた。「人がまだ見つかっていない状況で牛は扱いにくい」というのが理由だった。それならばとSNSに投稿すると、想像以上の反響があり、畜産農家の被災状況に目を向けるメディアが増えていった。しかし発災から3週間後に農家や関係団体が倒壊牛舎から救出できたのは仔牛1頭のみだった。情報もまたトリアージされるのだ。

(むらやま・よしあき) 写真家。1971年、横浜市生まれ。徳島市在住。農業系出版社勤務を経て2005年に独立。日本写真家協会会員。

能登半島地震

不足の薬剤など届ける

「復旧には産業と住居が必須」

青森、兵庫、福岡歯科などを訪問。不足している各協会と大阪府保険医協同組合の医師・歯科医師、事務局長は2月11、12の両日、能登半島地震で被災した石川県中能登町、七尾市、輪島市、珠洲市

「と話し、救援資材等の集積場所、要員の宿泊場所などの協力の申し出があった。七尾市では、ねがみらいクリニック院長の根上昌子氏と面会。同医院の2階では被災した女性が気軽に立ち寄れる休憩所を開設していた。根上氏から、被災地で高齢女性にマタニティブルマ・スパッツのニーズがあること等を聞き取った。根

上氏は性被害防止と、車の運転中や家の中で地震等に巻き込まれた際、自分の位置を知らせるための「笛」をつけた防犯ブザーを女性に配布している。七尾市よりさらに状況が悪い奥能登で渡してきてほしい」と私たちにブザーを託し、「訪問していただきとても嬉しいです。励まされましょ。職員のケアスタッフは要介護度5の高齢女性をケア中にドスンという大きな揺れに襲われ、家屋が崩れてきた。たまたま震度4の直下型地震が発生。直後に事務長から安否確認の電話が診療所へ入った。緊張を緩められ抱えて救出し、10日間寝起きを共にしたと当時の職員から聞き取り中にその後、金沢市内の石川協会事務所、輪島診療所所長の山本悟氏、石川協会副会長で保団連理事の平田米里氏らと懇談。また志賀原発の問題点について、北陸電力と共に能登半島地震も被害が大さかったが、今回は道路の寸断や孤立集落で取り残されるなど前回とは規模と内容が異なる」と説明。復旧・復興について「産業と住まいがあれば、帰りたい住民は戻ってこられる。能登半島の復興は産業の回復がない



▲被災したクリニック(奥)のドアには「要注意」の黄色い紙が張られ、仮設診療所(手前)で診療を再開していた(2月11日)
▼大阪協同組合を通して薬剤等を届けた



令和6年能登半島地震の復興へ 救援募金にご協力を



全国保険医団体連合会では令和6年能登半島地震救援募金に取り組んでいます。集まった募金は主に被災会員のお見舞いに充てます。募金の送付は、次の口座をお願いいたします。

ゆうちょ 口座振替 記号番号：00160-0-140346 加入者名：全国保険医団体連合会

他銀行 から振込 銀行名：ゆうちょ銀行(9900) 店名：〇一九店(019) 種別：当座 口座番号：0140346 口座名：ゼンコカキイダ ナルコ カイ

※送金手数料はご負担ください。 ※領収書をご希望の方は右の二次元コードから。 ※本募金は税務上の寄付金等の控除対象とはなりません。 「募金特別会費」として税務上の必要経費にできます。

